

# BASE Vol.112

実践的基礎知識 決算書の読み方編(3)  
 <貸借対照表② 貸借対照表のチェックポイント>

2020/03/12

## 貸借対照表のチェックポイント

貸借対照表のチェックポイントとして、自己資本比率、流動比率、固定比率、固定長期適合率の4指標について解説します。

### 自己資本比率

自己資本比率はどれだけ借金に頼らず経営をしているか(自己資本に他人資本を加え、他人資本を使って資本を大きくすることをレバレッジをかけると言います)を表す指標で安全性・安定性を示します。全資本のうち返済義務のない自己資本の割合で、目安として50%以上なら高水準、30%は超えておいて欲しい水準、20%を下回っていると危険な水準となります。

<計算方法>

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{自己資本}}{\text{総資産}}$$

### 流動比率

流動比率は1年以内に現金化できるお金と1年以内に支払わないといけないお金の比率を表す指標です。流動比率が低いほど、短期的に支払わないといけないお金に対して短期的に現金化できるお金が少ないことを示し、会社の安全性が確認できる指標の1つです。

<計算方法>

$$\text{流動比率} = \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$$

### 図表1: 貸借対照表の構成と4指標の算出項目

株式会社〇〇 貸借対照表

20XX年3月31日

<b>資産の部</b> 流動資産…① ※1年以内に現金化できる	<b>負債の部</b> 流動負債…④ ※支払期限が1年以内の負債
固定資産…② ※現金化に1年以上かかる	固定負債…⑤ ※支払期限が1年以上先の負債
資産合計…③	<b>純資産の部(資産－負債)</b> 純資産…⑥ ※純粋な自分の資産
資産合計…③	負債・純資産合計

自己資本比率

$$\cdots \frac{\text{自己資本(純資産)}}{\text{総資産}} = \frac{\text{⑥}}{\text{③}}$$

流動比率

$$\cdots \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} = \frac{\text{①}}{\text{④}}$$

固定比率

$$\cdots \frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}} = \frac{\text{②}}{\text{⑥}}$$

固定長期適合率

$$\cdots \frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}} = \frac{\text{②}}{\text{⑥} + \text{⑤}}$$

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

実践的基礎知識 決算書の読み方編(3)  
 <貸借対照表② 貸借対照表のチェックポイント>

### 固定比率

固定比率は固定資産をどの程度純資産でまかなえているかを表す指標です。低ければ低いほど安全性が高いということになります。100%以下が望ましいとされていますが、日本企業の場合は超えていることが多くあります。そのため、固定長期適合率と合わせて見るとよいでしょう。

<計算方法>

$\text{固定比率} = \text{固定資産} \div \text{純資産}$

### 固定長期適合率

固定長期適合率は固定資産を純資産と固定負債でまかなえているかを見る指標です。容易に換金できない固定資産を買う場合は、せめて自己資本と当面返さなくていい固定負債を原資とすべきで、100%以下が理想というより100%以下でない危険な水準となります。

<計算方法>

$\text{固定長期適合率} = \text{固定資産} \div (\text{純資産} + \text{固定負債})$

図表2: 実際の計算例

株式会社〇〇 貸借対照表

20XX年3月31日

資産の部		負債の部	
<b>流動資産</b>		<b>流動負債</b>	
現預金	200	支払手形及び買掛金	100
受取手形及び売掛金	200	短期借入金	150
在庫	100	未払金	50
		流動負債合計	300
		<b>固定負債</b>	
		社債	200
		長期借入金	150
流動資産合計	500	固定負債合計	350
<b>固定資産</b>		負債合計	
有形固定資産	300	650	
無形固定資産	100	<b>純資産の部</b>	
その他資産	50	資本金	200
		利益剰余金	100
固定資産合計	450	純資産合計	300
資産合計	950	負債及び純資産合計	950

この会社の貸借対照表から、実際に4指標を計算してみると…

自己資本比率=300/950=31.6%

流動比率=500/300=166.7%

固定比率=450/300=150.0%

固定長期適合率=450/(300+350)=69.2%



自己資本比率・流動比率は問題なさそうです。一方で固定比率が100%を超えている点がやや気になります。ただし、固定長期適合率が69.2%のため、借り換えの問題がすぐ存続の危機になることはなさそうです。